

執筆者略歴（2025年4月現在）

スコット・ペース（米ジョージワシントン大学エリオット国際関係学部宇宙政策研究所長、国際関係実践学教授）

科学技術政策国際研究所長、国際科学技術政策修士プログラム長も務めた。また、トラクトンバーグ公共政策・行政学部教員も務める。研究分野は、民生・商用・国家安全保障宇宙政策、技術革新のマネジメントなど。2017年から2020年、米大統領副補佐官及び国家宇宙会議事務局長を務めた後、2021年1月にエリオットスクールに復帰。2005年から2008年、米航空宇宙局（NASA）プログラム分析・評価局長。NASAに務める以前は、ホワイトハウス科学技術政策局（OSTP）宇宙航空次長を務めた。1993年から2000年、RAND研究所の科学技術政策研究所（STPI）に務める。1990年から1993年、商務省副長官室宇宙商務局次長及び局長代理。1980年、ハービーマッド大学物理学学士、1982年、マサチューセッツ工科大学航空宇宙工学・技術政策修士、1989年、RAND大学院政策分析学博士。2021年、日本政府から旭日重光章を受章、2020年、国防長官室 Group Achievement Award、2008年、NASA Outstanding Leadership Medal、2005年、米国防省 Group Superior Honor Award (GPS 省庁間チーム)、2004年、NASA Group Achievement Award (コロンビア事故緊急対応チーム) を受賞。世界無線通信会議米代表団メンバー（1997年、2000年、2003年、2007年）。また、アジア太平洋経済協力（APEC）電気通信作業部会米代表団メンバー（1997年から2000年）。最近では、国連宇宙空間平和利用委員会米代表団メンバー（2009年、2011年から2017年、2022年から2024年）。米海洋大気庁（NOAA）商業リモートセンシング諮問委員会（ACCRES）委員であり（2012年から2017年）、副委員長を務めた。大学宇宙研究協会元理事、国際宇宙航空学会会員、米航空宇宙学会准フェロー、米宇宙学会フェロー。

ブライアン・クラーク (ハドソン研究所シニア・フェロー、同防衛構想技術センター長)

ハドソン研究所のシニア・フェローで、同防衛構想技術センター長も務める。海軍作戦や艦隊編成、電子戦、自律システム、軍事競争、5G 通信、指揮統制の研究を主導。ハドソン研究所で勤務する前は、戦略予算評価センター (CSBA) のシニア・フェローとして、国防総省ネット評価局、国防長官府、国防高等研究計画局のために新技術や戦争の未来に関する研究を主導していた。それ以前は、海軍作戦部長特別補佐官兼司令官行動グループ長として海軍戦略の策定を指揮し、電磁スペクトラム作戦、海中戦、遠征作戦、人員即応性管理において新たな構想を実行。25年間の海軍生活では、下士官及び将校として、2隻の原子力潜水艦の機関長や海軍原子力訓練部隊の作戦将校など、海上及び陸上における潜水艦の運用・訓練に従事。米国立戦争大学で国家安全保障研究の理学修士号、アイダホ大学で化学と哲学の理学士号を取得し、ワシントン大学で化学の大院研究を行った。

ジョン・クライン (米ファルコンリサーチ・シニアフェロー)

コードネームは「Patsy」。宇宙戦略の専門家であり、また、ワシントン DC 地区の複数の大学において学部、大学院、博士課程レベルで宇宙政策及び戦略コースを指導している。宇宙戦略、抑止、武力紛争法について定期的に執筆している。著書には、*Understanding Space Strategy: The Art of War in Space* (2019)、*Fight for the Final Frontier: Irregular Warfare in Space* (2023)、*Space Warfare: Strategy, Principles and Policy* (2006 and 2024) があり、その他多くの本の章や論文を執筆している。また、退役米海軍中佐であり、ジョージア工科大学の海軍予備役将校訓練課程 (NROTC) を経て任官した。22年間にわたり海軍飛行士官を務め、主に艦載機 S-3B Viking に搭乗。イラクやアフガニスタンにおける戦闘活動を支援した。第 24 対潜航空隊副長、対潜武器学校最後の校長を歴任。ジョージア工科大学航空宇宙工学学士、海軍大学院航空工学修士、海軍大学国家安全保障戦略学修士、英レディング大学戦略学博士。米海軍テストパイロット

学校の優秀卒業生である。27種類の航空機による2,700時間を超える飛行時間、及び600回を超える航空母艦アレスティング着艦の経験を有する。

ケビン・ポールピーター（米空軍大学中国航空宇宙研究所（CASI）研究部長）
 CASI勤務以前は、米海軍分析センターシニア研究員を務めた。中国の国家安全保障、主に中国の宇宙プログラムや情報戦争について、幅広い著作がある。最近の著作は、*To Be More Precise: BEIDOU, GPS, and the Emerging Competition in Satellite-Based PNT, Coercive Space Activities: The View from PRC Sources, The PLA and Intelligent Warfare: A Preliminary Analysis, China's Space Narrative: Examining the Portrayal of the US-China Space Relationship in Chinese Sources and Its Implications for the United States* 等がある。中国語の専門家であり、モントレー国際大学院国際政策学修士号、キングスカレッジロンドンの博士号を有している。

ブレディン・ボウエン（英ダラム大学政治国際関係学科（SGIA）宇宙政治学准教授、及び同大学宇宙研究センター（SPARC）共同所長）
 2本の単著 *Original Sin: Power, Technology, and War in Outer Space* (Hurst, 2022)、*War in Space: Strategy, Spacepower, Geopolitics* (Edinburgh University Press, 2020) の著者であり、複数の査読付き論文の著者でもある。主要研究分野はスペースパワーと戦略理論、宇宙政策と政治学、軍事宇宙史、技術と近代戦、宇宙における国際関係・安全保障及びインテリジェンスである。また、英国首相政策室、米国国家宇宙会議、米国宇宙軍、欧州宇宙機関、英国国防省、英国宇宙庁、英国議会、日本の内閣府を含む多くの政府機関への助言、説明、ブリーフィングを行った。ダラム大学勤務以前は、レスター大学、キングスカレッジロンドン、アベリストウイス大学にて教育と研究に従事した。

福島 康仁（ふくしま やすひと）（慶應義塾大学総合政策学部准教授）
 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程単位取得退学。博士

(政策・メディア)。日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター研究員補、防衛省防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官などを経て、2025年より現職。専門は宇宙政策、宇宙安全保障。2013年8月から10月まで、米国ジョージ・ワシントン大学宇宙政策研究所訪問研究員。2022年9月から2023年6月まで、米国カリフォルニア大学グローバル紛争・協力研究所訪問研究員。著書に『宇宙と安全保障—軍事利用の潮流とガバナンスの模索』(千倉書房、2020年)、最近の共著論文に“Techno-Security Space Innovation,” Saadia M. Pekkanen, P.J. Blount, eds., *The Oxford Handbook of Space Security* (Oxford University Press, 2024)などがある。

ジャビエール・パスコ (仏戦略研究財団所長)

パリ・ソルボンヌ大学国際政治学博士。2016年10月よりパリの戦略研究財団(FRS)所長。それ以前は、FRS及びエコール・ポリテクニークのCREST(戦略と技術の関係に関する研究・評価センター)にて1980年代後半以降の宇宙、高等技術と安全保障関連研究に携わっている。安全保障のための宇宙の使用に関する複数のプロジェクトを実施しており、特に国内及び国際機関を支援している。また、20年以上にわたり、EU(EC)及び欧州防衛機関(EDA)や欧州宇宙機関が支援する複数のプロジェクトを取りまとめた。こういったテーマについて多くの著作(書籍及び100を超える論文やペーパー)を発表した。直近の著作には『*La ruée vers l'espace : nouveaux enjeux géopolitiques*』, Paris, Editions Tallandier, 2024、『*Le nouvel âge spatial : de la Guerre froide au New Space*』, Paris, CNRS Editions, 2017等がある。また、パリのフランス軍事学校やパリ政治学院でも講義を行ってきた。国際的な学術誌であるSpace Policyの欧州関連の編集を担当しているほか、2012年に国際宇宙航行アカデミーの正会員に選出された。また、米に拠点を置くSecure World Foundation(SWF)諮問委員会のメンバーでもある。

ラジェスワリ（ラジ）・ピライ・ラジャゴパラン（豪戦略政策研究所（ASPI）（キャンベラ）常勤シニアフェロー）

ASPI 勤務以前は、ニューデリーにあるオブザーバー・リサーチ財団（ORF）の安全保障・戦略・技術センター（CSST）長を務めた。2020年、インド政府首席科学顧問室及びインド科学技術庁による科学技術イノベーション政策（STIP 2020）報告書のための「科学技術」作業部会共同議長を務めた。2018年から2019年、宇宙空間における軍備競争の防止（PAROS）に関する国連政府専門家会合（GGE）技術顧問、また、2020年4月から12月、パース米アジアセンターにおける非常勤インド太平洋フェロー、さらに、2012年には台湾国立中興大学国際政治研究所客員教授を歴任した。2018年から2024年、*The Diplomat*誌のアジア防衛シニアライター及び週刊コラムニストであり、主にアジア戦略問題について執筆していた。2003年から2007年、インド政府国家安全保障会議事務局（NSCS）局長補であり、5年間の勤務を経てORFに参与。NSCSに勤務する以前は、ニューデリーの防衛研究分析研究所研究員を経験した。ラジャパゴン博士は、十数本以上の著作、共著及び編集に携わっており、*Assessing India's Perceptions of China's Nuclear Expansion* (2025)、*In Pursuit of Nuclear Security: Reducing India's Risks to Nuclear Terrorism* (2024)、ORF-Global Policy Journal Special Issue, *Future Warfare and Critical Technologies: Evolving Tactics and Strategies* (2024)、*Military Ambitions and Competition in Space: the Role of Alliances* (2022)、ORF-Global Policy Journal Special Issue, *Future Warfare and Technology: Issues and Strategies* (2022)、*Military Ambitions and Competition in Space: The Role of Alliances* (2021)、*Global Nuclear Security: Moving Beyond the NSS* (2018)、*Space Policy 2.0* (2017)、*Nuclear Security in India* (2015)、*Clashing Titans: Military Strategy and Insecurity among Asian Great Powers* (2012)、*The Dragon's Fire: Chinese Military Strategy and Its Implications for Asia* (2009)などがある。また、編集された書籍や、*India Review*、*Strategic Studies Quarterly*、*Air and Space Power Journal*、*International Journal of Nuclear Law and Strategic Analysis*などの査読付きジャーナルに研究エッセイを発表している。さらに、*The Washington*

Post、*The Wall Street Journal*、*Times of India*、*The Economic Times*といった新聞にもエッセイを寄稿している。また、国連軍縮フォーラム（ニューヨーク）、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）（ウィーン）、ジュネーブ軍縮会議、ASEAN 地域フォーラム（ARF）、欧州連合（EU）を含む国際フォーラムに招かれ登壇したことがある。X（旧 Twitter）のアカウントは @raji143、連絡はメールアドレス rajiraja@aspi.org.au; rajeswarirajagopalan@gmail.com まで。

令和6年度安全保障国際シンポジウム 「安全保障目的の宇宙利用—環境の変化と主要国の政策」

2024年12月11日(水)

9:30～9:35 開会挨拶：小林 一大（防衛大臣政務官）

9:35～10:05 基調講演：スコット・ペース（米ジョージワシントン大学宇宙政策研究所長、米国家宇宙会議前事務局長）

10:20～11:50 第1セッション「安全保障目的の宇宙利用を取り巻く環境の変化」

司会：福島 康仁（防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官）

発表：ブライアン・クラーク（米ハドソン研究所防衛構想技術センター長）

ジョン・クライン（米ファルコンリサーチ・シニアフェロー）

ケビン・ポールピーター（米空軍大学中国航空宇宙研究所研究部長）

討論：青木 節子（慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

13:30～15:20 第2セッション「安全保障目的の宇宙利用に関する主要国の政策」

司会：飯田 将史（防衛研究所理論研究部長）

発表：ブレディン・ボウエン（英グラム大学准教授）

福島 康仁（防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官）

ジャビエール・パスコ（仏戦略研究財団所長）

ラジェスワリ（ラジ）・ピライ・ラジャゴパラン（豪戦略政策研究所シニアフェロー）

討論：鈴木 一人（東京大学公共政策大学院教授、地経学研究所長）

15:35～16:35 第3セッション「総合討議」

司会：福島 康仁（防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官）

16:35～16:40 閉会挨拶：今給黎 学（防衛研究所長）